



☆羅針盤 No.88

東港金属株式会社
東京都大田区京浜島2-20-4
電話 03-3790-1751
URL <http://www.tokometal.co.jp>
(見学受付)
電話03-3790-1751 又は 各営業担当

*7月、今年も後半に入りました。正月だ、春彼岸だと思っていたら、もうすぐお盆を迎えます。お盆の行事は、昔は旧暦(大陰暦)の7月15日に行われていました。いまは、地方によってまちまちで、関東の東京、横浜などは新暦の7月13日からお盆とする家が多いようです。でも全国のほとんどの地域では、月遅れの盆(新暦8月)で行われ、会社の盆休みもそこに集中しています。未だ1ヶ月先ですが、一般的には8月13日に盆の入り、16日に盆明けが普通です。ただ今年は12日が土曜日で、11日は新しい休日「山の日」とされたことから、例年より長いお盆休みの会社もあるようです。暑い盛りの貴重な休日です。久しぶりに帰郷し墓参りを予定している人も多いでしょう。帰省ラッシュの列車はご免被りたいものですが、雑事を離れて日頃の疲れをとり、後半戦の仕事に備える体力をつけましょう。

*東港金属株式会社は非鉄・スクラップの買取り、産業廃棄物処理を“いつでも”お受け致します。ヤードも広くなりました。身近なりサイクルパートナーとしてお気軽にご相談ください。



営業部 Y の考察



☆羅針盤

鉄・非鉄スクラップ・市況からの7月予測

- 鉄スクラップ** → 考察) 6月は東京製鉄宇都宮工場特級価格が、24,500円/トンから26,500円/トンに上昇。7月に関しては、中国からの輸入の沈静化、ベトナム等輸出価格の上昇等上げの要因が多い事からスクラップ価格は上がるでしょう。
- 銅** → 考察) LME5,600ドル/トン台、国内銅建値670,000円/トンスタートし、最終的には、LME5,900ドル台/トン、国内銅建値690,000円/トン。に上昇。7月は、LME6,000ドル/トン突破・原油高・円安等の要因から、月初から上昇すると思われます。
- アルミ** → 考察) LME1,900ドル/トン台でスタートしたが、中盤に1,900ドルを割込み、上物・裾物共に価格は下がりました。7月に関しては、アルミの輸入塊の下げから下がると考えられます。
- プラスチック** → 考察) 原油価格の継続的な下げによりプラスチック価格は下がっています。何より中国の税関検査強化によりMIX等低品位プラの輸は困難です。現状では、いつプラの輸出が止まるかわからない状況。売れば買うことが出来ませんが売れなければ国内サーマル向けになる状況は続くと思われま。

6月予測の自己評価

鉄スクラップ	×	アルミ	○
銅	×	プラスチック	○

☆羅針盤 日常使われている大事な金属製品？ (硬貨の孔について)

羅針盤No.86号の「日常使われている大事な金属製品？」で載せた硬貨についてのトレビア第二弾で、硬貨の孔(穴)についてお話します。従前のトピックスで載せているリサイクル関連から離れますが、息抜きのできるのでお読みいただければ幸いです。

トレビア①: 日本の孔(穴)開き硬貨は、5円玉と50円玉に限定。
孔開き5円玉が最初に発行された昭和24年は、戦後の急激なインフレのため材料を節約するためでした。50円玉については、最初に発行されたものは、今の50円玉より大きく孔もなかったのですが、当時の100円玉と紛らわしいので、孔が開けられたそうです。その後100円の材質が白銅になり、同時に50円も白銅に変更され、やはり区別のため形も小さくなりました。『孔あき硬貨』にする明確な方針はなく「状況に応じて必然的に生まれたもの」だったようです。

トレビア②: 孔開き硬貨が西洋には少ない。
孔の開いた硬貨は日本では見慣れたものですが、西洋では大変珍しくそのため海外旅行に行く際に日本の5円玉をお土産に持っていくと現地の人に喜ばれることが多いと言われているそうです。しかし実際にはノルウェー、デンマーク、スペインにも孔開き硬貨が流通しているようです。

西洋に孔開き硬貨が少ない理由は製造方法の歴史に依るようで、西洋では貴金属をハンマーで叩いて伸ばして作る方法で、刻印もひとつひとつ入れておりました。この過程で孔を開けようとなると、更に手間がかかります。一方、中国では鋳造法を採用していたために有孔硬貨の製造が容易だったと言われております。

トレビア③: 日本の古銭の穴が方形(四角)の理由。
面白いことに、現在では硬貨の孔の形状は殆ど丸です。しかし、日本の古銭は丸い外形に四角い孔(円形方孔)です。日本人が一番よく知っている円形方孔の古銭といえば、ご存知、銭形平次の飛び道具「寛永通宝」でしょうか。又は日本で最初に使われた貨幣と言われている「和同開珎」でしょうか。「和同開珎」は中国(唐)の貨幣「開元通宝」を手本にしたと言われております。



中国の春秋時代初期、晋においては円形方孔の鋳造による銅銭が使用されていたのですが、その後鋳造工程の最終段階の研磨作業を考慮した円形方孔に形状を変化させたとのこと。加工に適した形状を求めた結果が方形の孔となったのです。

硬貨のトレビアについては、また回を改めて記載させていただきます。

Web参考資料: あなたは知ってる? 日本の硬貨に関するトレビア・雑学穴あきコインが西洋に無いのはなぜ? 半両銭 (wikipedia)



「私のあゆみ」 (第3回)

大学生時代にボランティア団体CHILE(ちやいる)で活動しましたが、今回は実際に支援国のバングラデシュ訪問時の経験をお話します。

これまでCHILEは、主に南部チッタゴン近辺を訪問していましたが、私を含む6人は北部を訪問しました。この年は通常のスタディツアーの外に、現地のキリスト教系 NGO法人であるBDPの訪問も入っていました。

CHILEで私たちが集めた寄付金は、日本のアジアキリスト教教育基金(ACEF)を経由してこのBDFに送られ、現地の小学校の建替え費用に当てられています。これまで先輩方が集めた寄付金で建替えた小学校は南部地区でしたが、私たちが北部地区を訪問したことにより、BDPへ送金した寄付金が北部地区の小学校の建替え費用に当てられることになりました。

訪問は夏休みの9月5日から19日まででした。首都ダッカ近郊の少し栄えたプーバイル地区では店が並び、多くの人が買い物をしていました。布製品の店が多く、6歳程の子供が働く店もありました。バングラデシュでは計算と名前さえ覚えれば、子どもでも商売人として稼がせている事を目の当たりにしました。

ボクシガンジというインドと境界に当たる地区には5日間滞在しました。ボクシガンジは農村地帯で店は殆どなく、ベンガル人だけでなく、モンゴロイド系キリスト教信仰のガロ族も山近辺で生活している為、両民族が使用する小学校もありました。その為、ある学校はキリスト教の飾りがあり、他の学校とは一風異なっていました。バングラデシュ国全体ではイスラム教が大半ですが、この地区はキリスト教が多く、欧州のイメージが強いキリスト教が何故ここに不思議でした。

宗教が違っていても、調和できる理想的な空間で継続するとよいと思いました。もちろん、どの学校でも生徒は真剣に授業に参加していました。片言で将来の夢を質問すると、お医者さんになりたい、教師になりたい等貧困な子どもでも大きい夢を持ち、輝いていました。

ボクシガンジは、電気が通ってない為、夜は真っ暗で炊事洗濯も一苦労な生活で、道も整ってない場所が殆どでした。ボクシガンジの生活4日目にジョブナ河で舟に乗りました。みんなと写真を撮り合い、お茶と外の眺めを楽しんでいた時、大きなスコールが降り、一瞬で水面が上昇してボートに水が入り、日よけのビニールも壊れる危険な体験をしました。これが大洪水だったら、今回の様には安全な場所に避難する時間がないのではないか、川岸だけでなく普通の道にも浸水し、建物が流される、人が溺れ死ぬ等、災害の恐怖を考えさせられました。どの場所でも同じですが、安全な環境が大事であると思いました。その恐怖の分、メンバーと過ごした時間はとってもあたたかいものでした。

営業部 営業4課 若松いさ子